
【夢小説】扉編（１）

魔萌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【夢小説】扉編（１）

【Nコード】

N2511W

【作者名】

魔萌

【あらすじ】

いつも通り平和（？）に過ごしていた沢田家。
だがある手紙一通の起源から、
沢田たちに大きな事件がかかわることに…

+ 1 + *ボンゴレ10代目への挑戦状* (前書き)

これはあくまで、フィクションです。

ほかの漫画の原作ではなく、作者が勝手にまじあわせた作品です。

少々キャラ崩壊的な場面もあるかもしれませんが、

それは、作者がそのキャラクターはこういう性格だと思い、行動させているので

「このキャラクターはこんなことはしない。」などのコメントはお控えください。

あくまで、夢小説です。

それでもいい方は、どうぞそのままお読みください。

↓ 夢小説に出てくるアニメ・漫画・その他 ↓

・ REBORN !

・ ????

・ オリキャラ

等々…

+ 1 +

* ボンゴレ10代目への挑戦状 *

ある朝… その事件（？）は沢田家のポストの中に入っていたものから始まった。

「おい、ツナ。起きろ朝だぞ。」

いつも普通じゃない起こされ方をしていたリボーンだけれど、今日はすんなりと清々しく起きた。

「ん…？こんなにあさ早くから、何？」

「これを読んでみる。」

リボーンの手には、小さな黄緑色の手紙を持っていた。

「ツナあてだぞ。」

「俺あて？」

ツナはゆっくりと手を伸ばし、その手紙をつかんだ。そのとき、香水のミントの香りがした。ツナは不思議そうに、中を開けて読んでみた。

「拝啓ボンゴレ10代目。 私は、∞代目ファミリーのボスの∞代目と申します。」

ボンゴレ9代目からの許可を受け取り、貴方の座を奪う権利を得た。

よって、私たち∞代目ファミリーは、これを挑戦状とし、貴方に送り、

ボンゴレ10代目の座を奪いに行く。

戦争時の待ち合わせは、夜の並盛中に集うことにする。

逃走があつた場合、ボンゴレファミリーを

つぶしに行く。今後の期待を待つ。 ∞代目ファミリーボス

∞代目より……」

「名前をかくしてるみてーだが、どうする？ツナ。受けて立つか？」

「！？！こんな物騒な物がなんでうちにあるんだよ！？」

「ママンがポストから見つけ出したらしいぞ。」

「そういう意味じゃなくて！！ ああっ！もう！何なんだよコレ！！」

「逃走したら、ファミリー全員が皆殺しになれるかもしれないぞ？それでも逃げんのか？」

「それは…ダメだよ。俺のせいで皆が傷つくのは嫌なんだ…」

「だったら、どうすんだ？」

「受ける………しかないよな………；；」

ピンポン

その時、誰かが沢田家の家に訪問してきた。

「こんな朝早くから、誰だろう？？」

ダッダッダダダッダ……！！

思いつきり階段を勢いよくかけ上がってくる音が響いた。

獄寺「おはようございます！10代目！」

ノックも無しにドアを開けて、汗だくで笑顔の獄寺の姿が見えた。

「ご、獄寺君…… おはよう^^； こんなに朝早くからどうしたの？」

「あ、いや、朝起きてみたら、こんなもんが置いてありまして……」

獄寺の手には赤い色をした手紙を持っていた。

「ほかの奴らにも挑戦状が届いてるみたいだな。」

「後ですね、ほかのやつらにも聴きに行ってきたところ、山本は水色、芝生は黄色、

雲雀は紫、の手紙が届いたみたいです。」

「属性の色だな。」

「ってことは、ランボや、クロームにも……！？」

「だろうな。」

「皆受けて立つ気はあるみたいですよ。もちろん俺もです!」

「で、でも大丈夫かな? ; ; ; もし負けちゃったりしたら……」

「大丈夫っすよ! なんせ、この俺がついてますから!」

「う、うん ; ; ; ありがとう ^ ^ ;」

(それにしても… ∞ 代めファミリーなんて聞いたことねえ… もしかして…)

あいつがもう動いてんのかも知れねえーな。ニツ

リボーンは小さく微笑んだ。

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2511w/>

【夢小説】扉編（１）

2011年10月9日14時53分発行